

太田川直轄河川改修事業 (市内派川高潮対策)



平成17年8月29日
中国地方整備局

太田川市内派川高潮対策とは？

太田川直轄河川改修事業 (市内派川高潮対策)

1. 事業内容

太田川放水路・旧太田川・天満川・
元安川を対象に

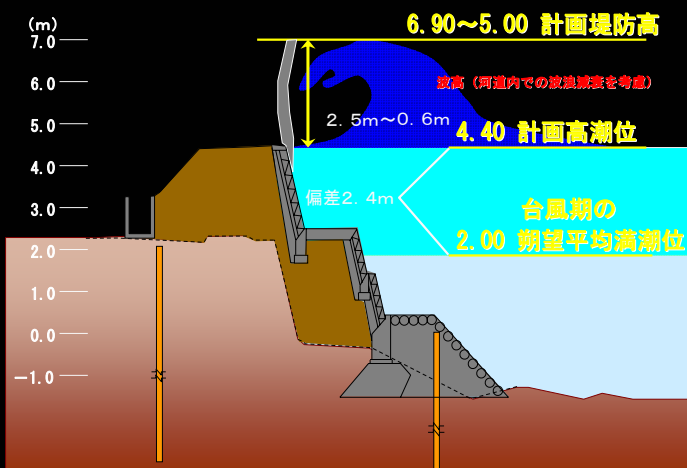
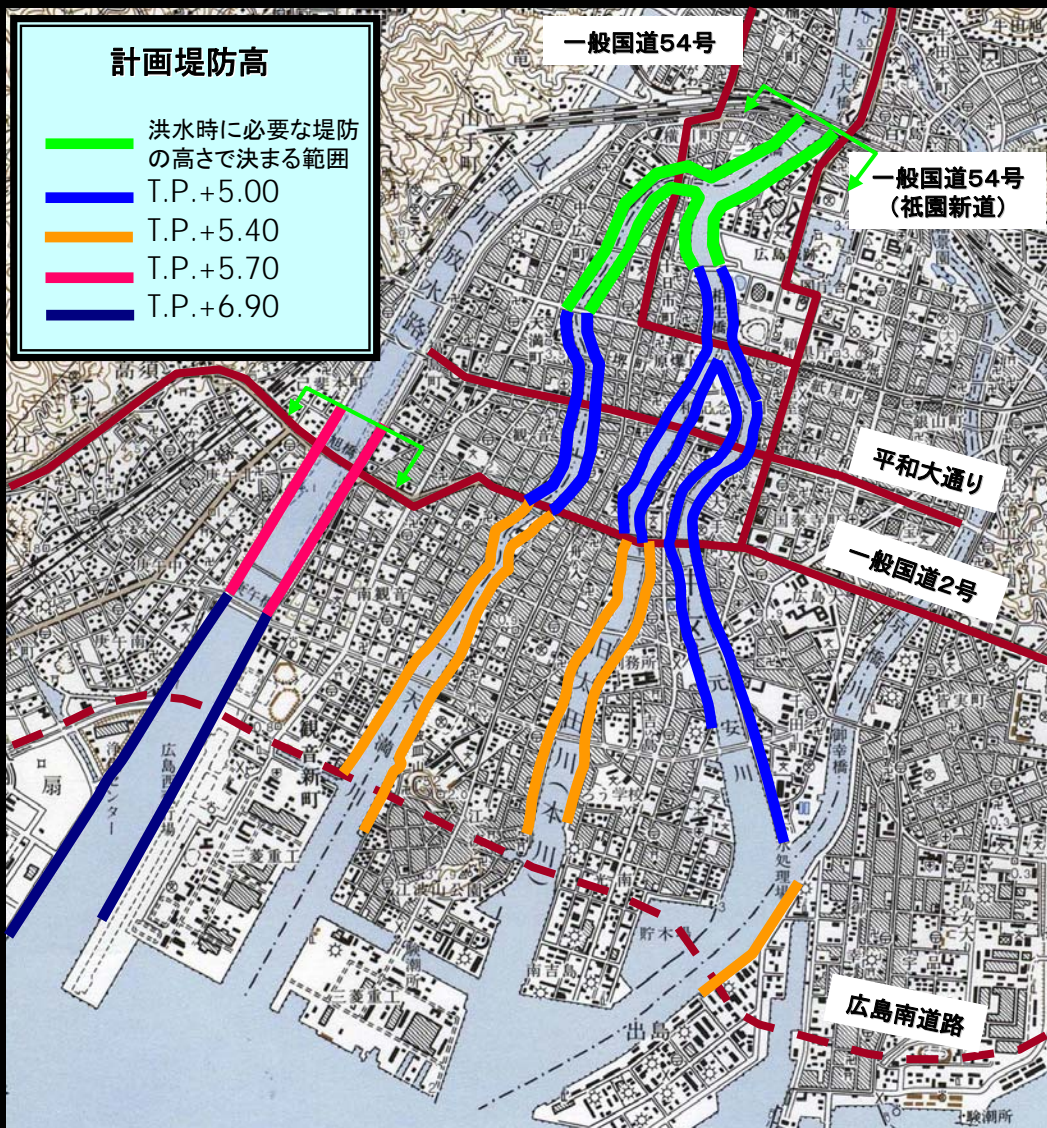
- ・高潮堤防・護岸 L=28.3km
うち再度災害防止区間 L=10.87km
うち耐震対策区間 L=16.4km
- ・用地買収 1.3ha
- ・家屋補償 24戸
- ・漁業補償 28.3km

2. 事業採択

昭和54年度

3. 事業費

- ・高潮 約1,100億円
- ・耐震対策 約 120億円



太田川下流部の概要

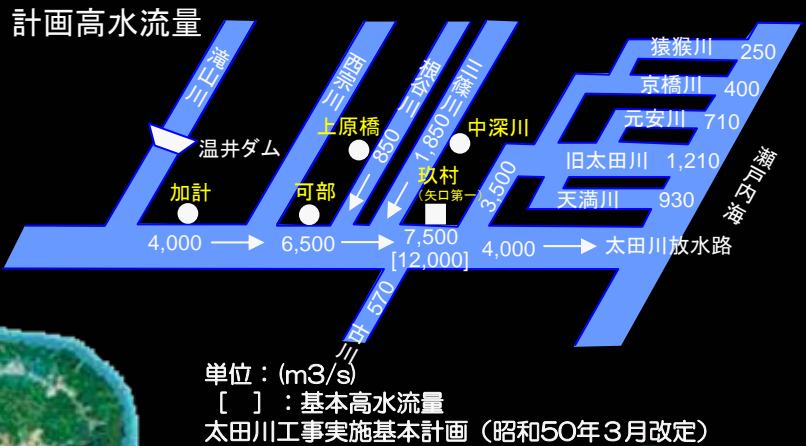
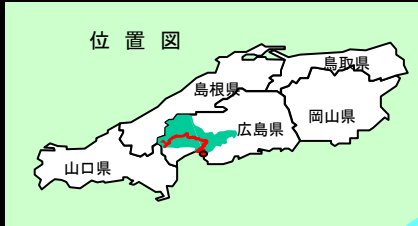


国土交通省

中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure and Transport
Chugoku Regional Development Bureau

太田川流域の概要



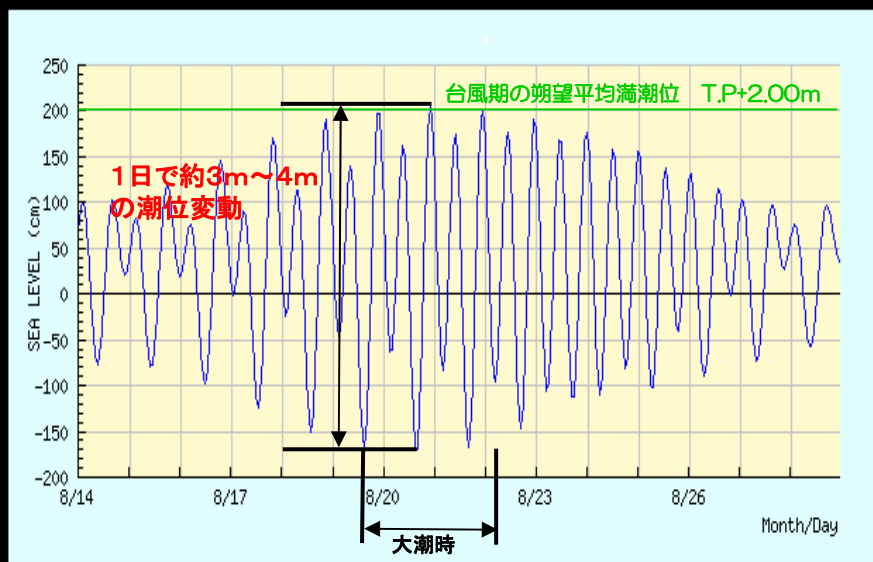
項目	諸元
流域面積	1,710km ²
幹線流路延長	103km
直轄管理区間延長※	121.5km
計画高水流量	7,500m ³ /s

※温井ダム管理区間は除く

瀬戸内海(広島湾)

太田川下流部の概要

広島湾の大潮時の一日の干満の差は約3m~4m程度と潮位変動量が大きい。



広島湾は南向きに向け、また、湾自体が奥まった形状をしているため、台風が広島市の西側を通過した場合、台風の風により押し寄せられた海水が抜けにくい構造になっている。



国土交通省

中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure and Transport
Chugoku Regional Development Bureau

太田川下流部 (広島デルタ) の概要

地区の成り立ち

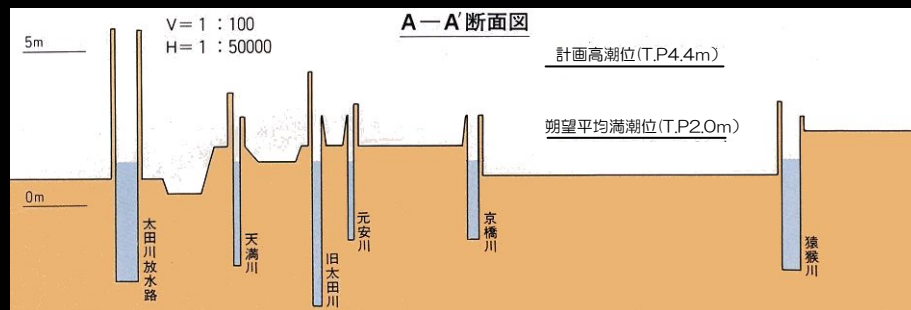
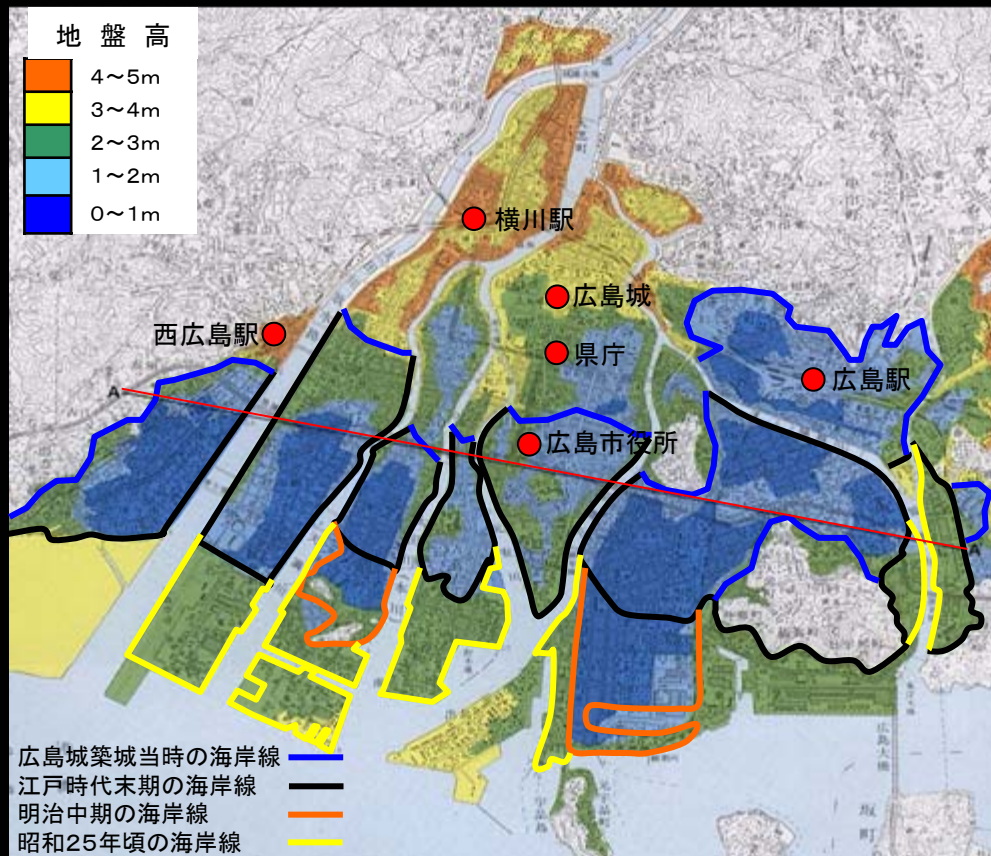
- ・広島デルタの多くは、江戸時代以降に干拓や埋め立てによって造成され発展してきた。
- ・このため市街地の多くは海拔0~2mといわゆるゼロメートル地帯となっている。

地形的特性

- ・広島デルタが南に開けているため、高潮災害に対し、防災上非常に不利な地形となっている。



**台風等により潮位が高くなれば
広島市中心部の殆どが水没し、
都市機能が完全にマヒする。**



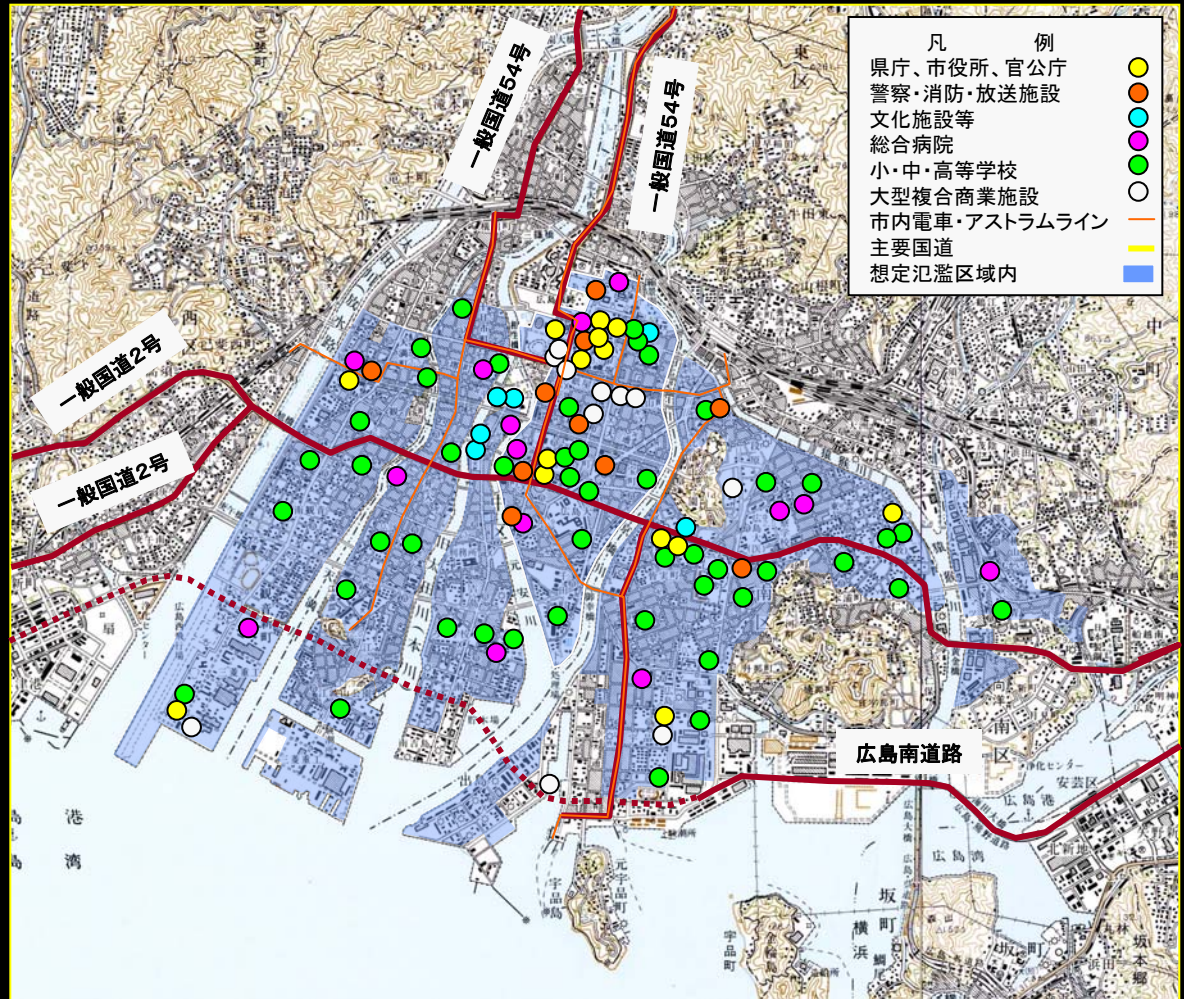
周辺地域の概要

想定氾濫区域内の状況

高潮による想定氾濫区域内には県庁、市役所をはじめ、官公庁施設、学校、病院、文化施設などの公共施設が存在するほか、大型複合商業施設等が存在している。また、広島市や民間による再開発等も行われている。

区域内では市街地と東西及び北方面を結ぶ交通の大動脈である国道2号、54号が分断されることとなる。

項目	現況
想定氾濫面積	2,034ha
人口	346,273人
世帯数	202,409世帯
想定被害額	4兆3,100億円



広島デルタ地帯の高潮被害状況（1）

・広島デルタ地帯の高潮被害は昭和8年からの72年間の間に14回の被災を受けている。

発生年月日	台風呼称	最高潮位 (T.P・m)	偏差 (m)	被害内容
昭和8年10月20日	—	2.58	不明	不明
昭和9年9月9日	—	不明	不明	家屋全半壊 690 浸水 378 船舶沈没・流失 234
昭和17年8月27日	周防灘	3.30	1.0	家屋全半壊 1,159 浸水 21
昭和18年9月20日	26号	2.30	不明	家屋全半壊 471 浸水 574 船舶沈没・流失 16,128
昭和25年9月13日	キジア	2.33	不明	床上浸水 410 床下浸水 2,804
昭和26年10月15日	ルース	1.78	1.90	家屋全半壊 226 浸水 4,540 船舶沈没・流失 53
昭和29年9月26日	洞爺丸	2.70	1.30	床上浸水 256 床下浸水 2,953
昭和30年10月1日	ルイズ	2.69	1.00	床上浸水 361 床下浸水 2,633
昭和51年9月13日	17号	2.38	1.00	床上浸水 5 床下浸水 276 家屋半壊 2
昭和53年9月15日	18号	2.78	0.90	床上浸水 223 床下浸水 274
平成3年9月27日	19号	2.91	1.81	床上浸水 423 床下浸水 1,220
平成11年9月24日	18号	2.74	1.84	床上浸水 216 床下浸水 202
平成16年8月30日	16号	2.75	0.74	床上浸水 1 床下浸水 16
平成16年9月7日	18号	2.96	2.06	床上浸水 86 床下浸水 92



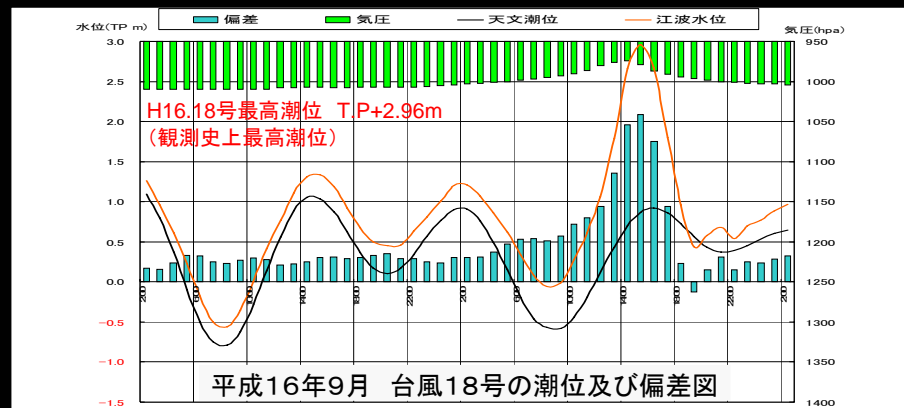
国土交通省

中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure and Transport
Chugoku Regional Development Bureau

広島デルタ地帯の高潮被害状況 (2)

平成16年台風18号による被災状況



	観測潮位	浸水面積	浸水戸数
平成16年 台風18号	2.96m	354ha	床上浸水 86戸 床下浸水 92戸

太田川下流部沿川の課題

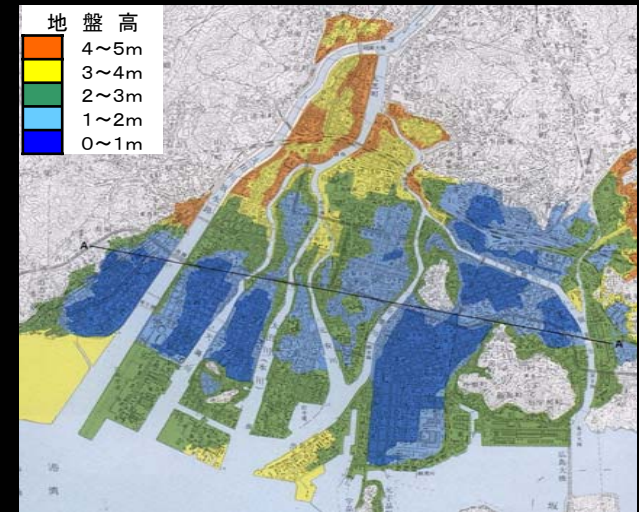
① 脆弱な堤防・護岸

- ・ 高さが低く、堤防断面が不十分
(越水、越波の被害の可能性大)



② 河川背後地の低い土地に住居密集

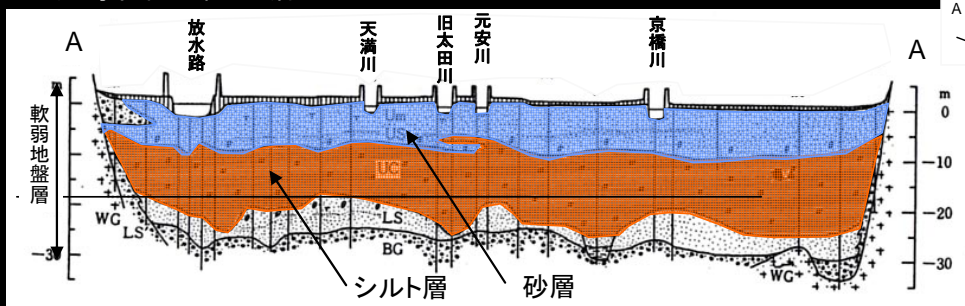
- ・ 地震による液状化により堤防が崩壊、沈下
(ゼロメートル地帯では通常満潮時での浸水が発生)



③ 軟弱な地盤

- ・ 高潮堤防建設のため堤防の重さにより周辺地盤が沈下
(周辺家屋の変状等による影響大)

広島市中心部の地層



地下約25m程度の区間が軟弱地盤層



国土交通省

中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure and Transport
Chugoku Regional Development Bureau